

ロシアの接近



* 徳山毛利家文庫 条約28「魯西亜志下」に付属しているレザノフ（レサノット）の絵

解説

1792（寛政4）年、ロシアのラクスマンは大黒屋光太夫ら漂流者3名を送還する名目で根室に来航し、幕府（老中松平定信）に通商を求めました。のち1804（文化元）年、ラクスマンが受けた長崎入港許可証とロシア皇帝の親書を携えて、レザノフが長崎の出島に来航しましたが、すでに定信は失脚しており、幕府は彼らを半年間出島に留め置いた末、長崎奉行遠山景晋（時代劇等でおなじみの遠山金四郎景元の父）が通商の拒絶を通告しました。

その後ロシア船が樺太・択捉を攻撃したことから幕府は諸藩に防衛を命じ、松前・蝦夷地を直轄化しましたが、その様子は3-2-4「アイヌ民族との交易」の「唐太話」や「魯西亜騒動落書」（徳山毛利家文庫 条約25）等に詳述されています。

「魯西亜志」は、ロシアの接近に危機感を持った幕府が、桂川甫周に命じてドイツの地理書を翻訳させたものですが、レザノフと下のロシア船の絵はもともとあったものでなく、あとから附属されたものです。



* 帰国した大黒屋光太夫は11代將軍徳川家斉、老中松平定信の前で聞き取りを受け、桂川甫周が「漂流御覧之記」としてまとめました。徳山毛利家文庫 条約24「泰西諸説」にその写しがあります。

* 幕府がラクスマンに与えた入港許可証の写しは、徳山毛利家文庫 条約30「文化元甲子歳九月捧江府ヲロシア書翰阿蘭陀語翻譯仕候横文字和解并ヲロシア属国之地名」の末尾に合冊されています。

* レザノフの来航は「両公伝史料」1189にも記述があります。